

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要 大阪狭山市教育委員会



1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 対象学年

小学校第6学年 実施校数-児童数 7校 501人
 中学校第3学年 実施校数-生徒数 3校 487人

3. 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 ・小学校【国語、算数】
 ・中学校【国語、数学】
 ※英語（中学校）、理科（小中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず
- (2) 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
 原則全ての児童生徒を対象にオンライン方式により実施

4. 実施日 令和6年4月18日（木）

5. 調査結果の取扱いについて

本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。また、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

教科に関する調査結果

【小学校】

○国語

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
		71	66	67.7
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	63.4	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	87.4	85.5	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.6	72.6	74.6
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	60.2	57.3	59.8
	B 書くこと	71.6	65.9	68.4
	C 読むこと	72.7	69.0	70.7

昨年度の課題であった「情報の扱い方に関する事項」では、平均正答率が昨年度にくらべ大きく上回る結果となっている。与えられた情報を設問に對し的確に読み取ることができている。また、その他の項目、とりわけ「書くこと」や「読むこと」の項目においても正答率は良い結果となっている。これまでに取り組んできた「つながる学び・つなげる指導」の成果と見られる。

○算数

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
		65	63	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	68.2	65.3	66.0
	B 図形	69.3	65.2	66.3
	C 変化と関係	51.4	50.9	51.7
	D データの活用	62.6	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	74.2	71.9	72.8
	思考・判断・表現	53.3	50.5	51.4

昨年度の課題であった「データの活用」の領域では、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することは概ねできている。一方、「変化と関係」の領域では、単位量当たりの大きさ（速さ）について、深い理解を伴う知識の習得に課題が見られる。

【中学校】

○国語

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
		59	57	58.1
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.9	59.1	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	59.8	59.4	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.8	75.8	75.6
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.1	56.4	58.8
	B 書くこと	65.6	63.3	65.3
	C 読むこと	49.2	47.2	47.9

昨年度の課題であった「情報の扱い方に関する事項」では、平均正答率が昨年度にくらべ上回る結果となっている。問題本文中の情報と情報の関係について、的確に読み取ることができている。一方、「話し合い中の発言」についての情報の読み取りについて、意見と根拠を整理して情報を結びつけて理解する設問には引き続き課題が見られる。

○数学

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
		55	51	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	53.6	50.4	51.1
	B 図形	43.6	40.5	40.3
	C 関数	61.4	58.9	60.7
	D データの活用	57.5	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	65.4	61.9	63.1
	思考・判断・表現	31.0	28.2	29.3

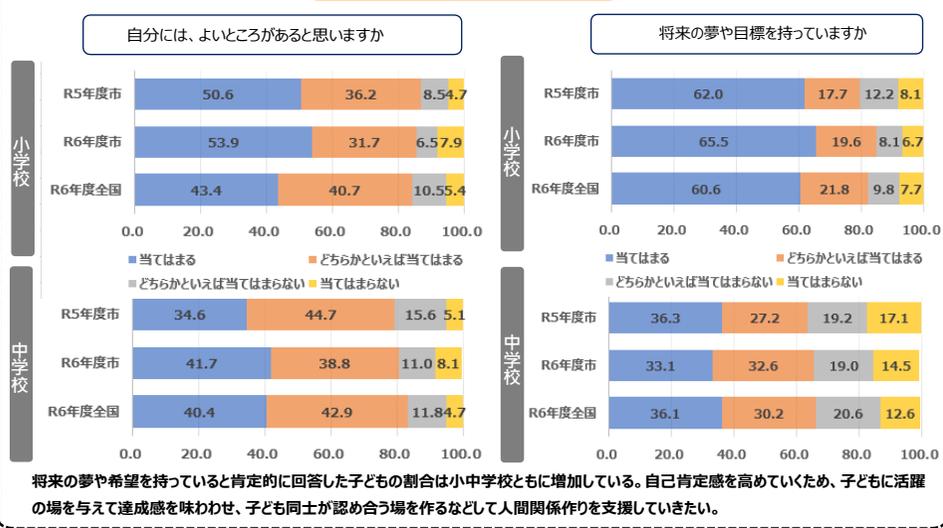
昨年度の課題であった「データの活用」の領域では、確率を求めることや与えられたデータから最頻値を求める知識・技能を問う短答式の問題は概ねできている。一方、複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較することや傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題には課題が見られる。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要 大阪狭山市教育委員会

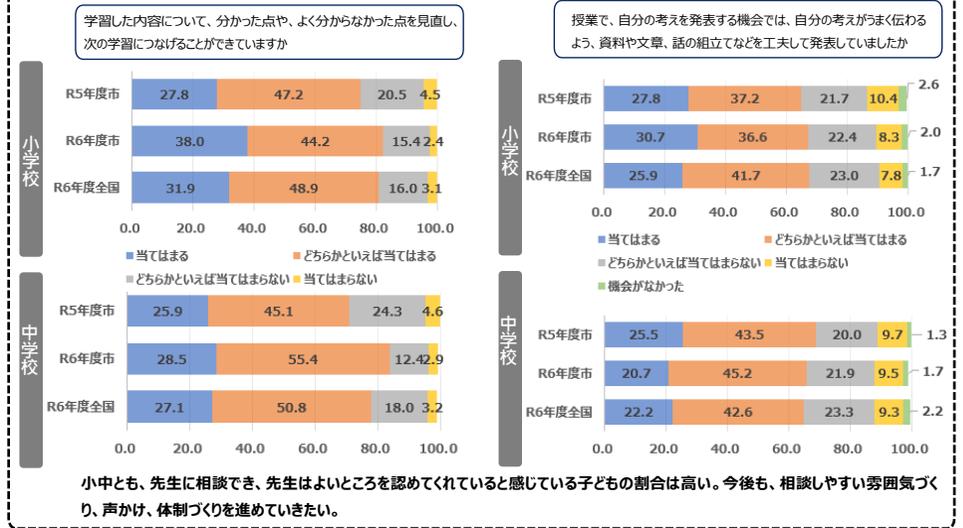


質問調査結果

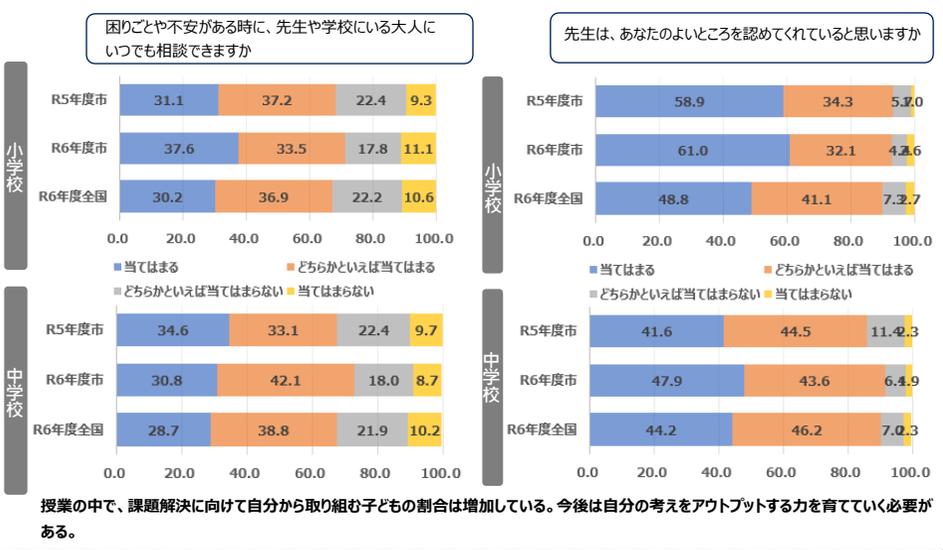
子どもたちの自己肯定感



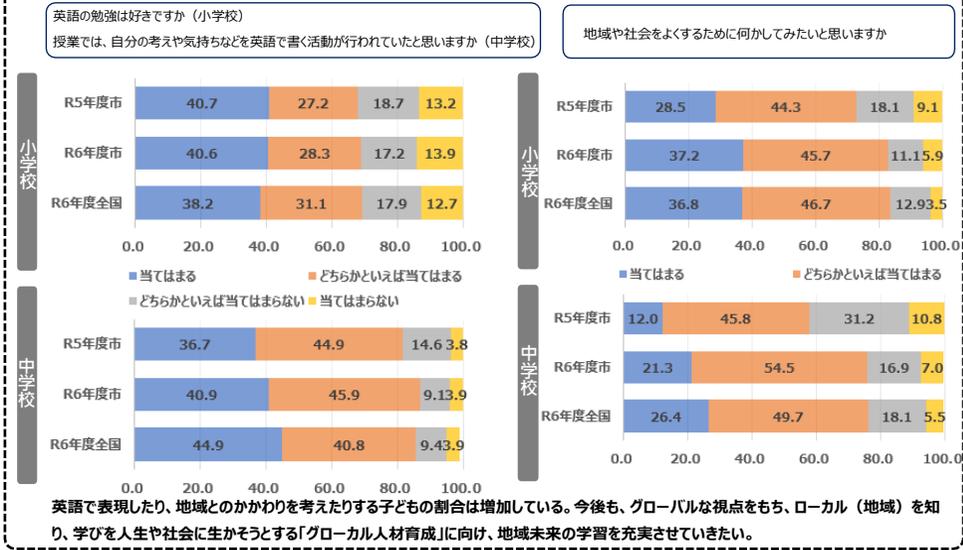
学びに向かう力（知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに子どもたちに育むべき力）



子どもと教職員との関わり



グローバル人材育成に向けての一層の充実



※「肯定的に回答した子どもの割合」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合の合計を表します。